
姉

赤羽岩淵

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姉

【Nコード】

N0023B

【作者名】

赤羽岩淵

【あらすじ】

ありふれた日常のヒトコマ、姉と弟の話。

トマトサラダとポテトサラダがテーブルの上に乗っている。
台所を見ると三品目のサラダを作る姉がいた。

俺は姉が好きだ、サラダを三品も作ってしまう所とか、目の下のホクロとか、左ききな所とか、おおらかな性格とか、数えるときりがない。姉として好きな気持ちより最近姉を女として見てしまう、まずい。

それに凄い感謝している。両親がいなくなってから俺が高校生活をまっとうに送れるのは姉がキャバクラで働いて学費を出してくれているからで凄い感謝している。

『今日は休みなんだ』

『そう休みよ、だからちよつとはりきつちやった』

姉ははつきりいつてアホだ、だけど馬鹿ではない。

ポテトサラダとトマトサラダとタマゴサラダを食べる、美味しい、美味いがご飯と味噌汁がない、サラダだけだ。

『ごちそうさま』

『美味しかった？』『ああうん美味かったよ』

『そう、よかった、ちょっとサラダばっか作りすぎちゃってゴメンね』

『いいよ、サラダ好きだし』

そんな事はどうでもいいのだ。姉に気持ちを伝えるべきか？姉は好きだ、できるなら姉と……いやどうなのそれはまずいでしょと誰かに言われている気がする、自分でもわかってる、どうしようもねえ、どうする。

『なにぼーっとしてんの？悩み事なら相談しなさいよ、家族なんだから』

姉の笑顔が眩しい、あわよくばなんて考えてた俺の考えは一瞬にして消え飛んだ。

『いや、何でもない、明日早いから寝るわ、おやすみ』

『そう、なんかあったらいいなよ、おやすみ』

次の日朝起きるとご飯が作ってあった、オムレツとだし巻き玉子と目玉焼き、姉はまだ台所にいる、きつと四品目の玉子料理を作っているのだろう。

こんな姉が大好きだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0023b/>

姉

2011年1月30日02時43分発行